

夕風

原民喜

青空文庫

老婆は台所の隅の火鉢に依掛つて肉を焼いた。彼女の額も首も汗に滲み、まるで自分が焼かれてゐるやうな気がした。四つになる児が火のついたやうに傍で泣いた。口を四角に開けて、両手で足をさすりながら「馱に行かう、馱へつれて行け。」と強請んだ。

台所の高窓には午後五時の青空と白熱の光を放つ松の樹があつた。その松では油蟬が啼いた。肉はじりじりと金網の上で微かな音を立てた。胃から血を吐いて三日苦しんで死んだ、彼女の夫の記憶が、あの時の物凄しい光景が、今も視凝めてゐる箸のさきの、灰の上の灰のやうに静かに蹲うづくまつてゐる。彼女は火鉢の火気のなかに身を委ねて、今うとうとと仮睡眠かけた。

突然、何かただならぬ物音が彼女の意識を甦らせた。と、今迄泣いてゐた子供も一寸泣き歇んだ様子であつた。一睡、鋭い、奇異なものの気配が、空氣に漲つて裂けた。彼女がぼんやり怪しんでゐるところへ、表からどやどやと子供達が馳せつけて来た。

「大変だ、火薬庫が爆発した。」

「ほら、あそこに煙が立つ。」

子供達は晴やかに喚き立てる。老婆は箸を執つて、燃えてゐる方の肉を裏返した。

青空文庫情報

底本：「普及版 原民喜全集第一巻」芳賀書店

1966（昭和41）年2月15日初版発行

入力：蔣龍

校正：伊藤時也

2013年1月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夕凧

原民喜

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>